

あい・愛だより

編集・発行

名護市総務部総務課 地域協働係

沖縄県名護市港1-1-1

TEL (0980) 53-1212 (内線215)

☆男女共同参画計画

☆子育て支援

23号

☆☆☆名護市男女共同参画の推進にむけて☆☆☆

施策のめざす方向



男女がともに支え合い、自ら希望する生き方が実現できるよう、子どものころからの教育や相談体制の充実を図るなど、社会的支援制度を整え、男女共同参画社会の実現を目指します。

●経緯・現状

◎少子高齢化が進行し、地域社会・社会経済情勢の変化が著しい現代社会においては、男女がお互いにその人権を尊重しながら、個性と能力が発揮できる男女共同参画社会の実現が求められています。本市においても「男女共同参画計画あい・愛プラン」を策定していますが、周知が不十分な状況があります。

◎本市における意思・方針決定の場における女性の登用率は17%～18%となっていますが、今後は更に女性の登用を積極的に取り組む必要があります。

◎男女共同参画社会の市民への周知や意識づけの啓発活動として、女性ネット等市民団体と連携しフォーラムや講演会、女性史展の開催等の取り組みを行っています。



●施策に関する市民の声

◎委員会等への女性登用率が以前と比べてあまり変化がないのではないかな。

◎男性に対して、男女共同参画の教育の場を設けてはどうか。

◎男性も積極的に育児休暇をとってはどうか。

◎「家族こそ社会の柱」という考え方が浸透しておらず、ワークライフバランスへの意識が低いのではないかな。

◎共働きが多く、女性が家事・子育て・仕事をこなさなければならないので、大変である。

◎DVの被害者が多いと思われる。

◎男女共同参画やDV相談窓口についての情報が少ないのではないかな。



●課題

- ・「男女共同参画計画あい・愛プラン」の周知徹底
- ・政策決定の場における女性の積極的登用
- ・市民に対する男女共同参画社会の啓発活動の拡充
- ・男女の意識改革と家庭における作業分担（男性の家事・子育て等への参加）
- ・男女共同参画計画やDV相談窓口の広報・PR活動の充実



市民運動での受付

「あんならしさ」「あところらしさ」より、もっと大切なものは何だろう!!

報告

☆☆☆・北部の医師不足で論議・☆☆☆

「北部医療の発展を考えるシンポジウム」(名護市各種団体女性代表ネットワーク協議会主催)が2日、名護市の北部会館で開かれ、コーディネーターを務める名桜大学准教授の大城真理子氏をはじめ医療関係者が北部の医師不足解決に向けて議論した。

県北部福祉保健所の宮里達也所長は「行政ではなく、一専門家としての意見」とまえおきした上で、中長期的な解決策として県立北部病院と北部地区医師会病院の統合を提案した。

同医師会の石川清和副会長も同調した。

宮里所長は、「やんばる『医の智』のリレー運動」と題して基調講演。

県内の医師不足の解決策は「人材育成しかない」と強調。そのために琉球大学の機能強化や医師が働きやすい環境の整備などが必要と説いた。

北部における具体的な解決策として、病院統合のほか、琉大から産科医を派遣する制度をつくることを提案。「医療の課題は住民が一致した考えで行動しないと成功しない」と市民の意識向上を呼び掛けた。

県立北部病院の病床は約300、医師会病院は約200ある。統合によって必要な医師数が少なくて済み、さまざまな病気を抱えた患者を1カ所に対応できるようになるという。

研修医にとっても多くの医師から学ぶことができ、研修医同士の切磋琢磨(せつさたくま)も期待される。

また、同じく登壇した名護療育園の泉川良範施設長は、北部で医師を育てる方法として

- (1) 医学部進学希望者への奨励金支給
- (2) 北部出身医師の組織を設立
- (3) 北部出身医師に地元に戻るよう呼び掛けるキャンペーンなどを提案した

また、地域住民の医療問題に関する当事者意識が薄く、行政任せになっていることを指摘した。



シンポジストの先生方



高齢者ハウス見学

報告

ー日本女性会議2012 in 仙台ー

去る10月26日(金)27日(土)28日(日)仙台国際センターを会場に日本女性会議が開催され名護市から4名が参加した。



◆第1分科会 パネルディスカッション

復興・防災に女性の声を ～出す、ひろう、生かす

今、全国各地で、防災や減災に向けた地域づくりや新しい取り組みが模索されています。初日の特別プログラムで発信された現状と課題を踏まえ、東日本大震災後の調査報告や研究者の分析などから、復興・防災のプロセスに女性が参画していくための方策を探る。

災害時、女性が直面した困難の背景には、男女共同参画をめぐる様々な課題があります。その解決のために女性たちの声をどう届けていったらいいのか、一緒に考える。



◆第2分科会 対談+パネルディスカッション

「困難すごろく」でみる女子の生きづらさ

貧困、非正規雇用、DVなど、女性が抱える「困難」は個々の問題ではなく、社会全体の課題です。震災によってより深刻になっている「困難」を可視化し、女性たちのゆるやかなつながりを通して、“ときほぐす”ことを提案する。「あなたの『困難』は、私の『困難』」ーこれが、本分科会の合言葉です。気づきと共有が、「困難」の先にある「ワタシらしい歩み」のヒントとなるはずです。さあ、Let's 困難解体!



お知らせ

DV防止についてさまざまな立場で考えるフォーラム

日時：2013年2月24日(日) 11:00~17:00

場所：沖縄市立中央公民館(沖縄市ハ重島1-1-1)

対象：関心のある方であればどなたでも参加可!



お問い合わせは…



名護市総務部総務課 地域協働係 TEL/53-1212(内線215) 担当/湯澤 担当/大城